

(4) 山口県防府健康福祉センター

山口県防府健康福祉センター
地域職域連携推進事業の取り組みについて

1. 協議会の運営について

1) 経過について

平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
推進協議会(1回)	→ (3回)	⑧推進協議会(1回)	地区別ネットワーク 会議(2地区×2回)	・ネットワーク会議 (1地区×2回)
作業部会(4回)	→ (10回)	ネットワーク会議 (3回)	(*10月市町合併)	
管内:防府市、徳地町	管内:防府市、徳地町	管内:防府市、徳地町	管内:防府市、 徳地町(9月末まで)	管内:防府市

*詳細については、別添資料1

2) 予算確保の工夫

モデル事業実施後、当該事業を防府管内地域職域連携保健事業計画に位置づけ、山口県健康づくり計画を推進する「健康やまぐち21県民運動活性化促進事業」として経費を支出している。

なお、具体的な共同保健事業等経費については、無理なく継続できるよう、特別の経費ではなく関係機関の既存事業の活用、主に経費以外の「人、物、時間、情報など」を相互活用し合うことに重点をおいている。

また、予算確保された他の既存事業を活用し既存事業の目的と併せて推進できるよう検討している。

3) 構成メンバーについて

(1) メンバーの広がり

前年実施の中から見えてきた課題を地域・職域関係者(機関)が共有し推進体制を見直し、課題解決に向けて構成メンバーを整備の上、新たな年度の取り組みを推進するようにしている。

こうして、また年度終了時に新たに分かった課題をもとに、次年度には再び推進体制を見直し、課題解決に向けた構成メンバーを整備し、取り組みを推進している。

*詳細については、別添資料「体制づくり」参照。

(2) 連携の推進となる重要人物

主役である事業所(住民)の参画が重要である。

事業所(住民)には底力があり、まさに中心人物といえる。

行政が一方向的に決めることがないよう、事業所(住民)の本当の思いを事業所の立場になってしっかりと聞くことが大切と考える。

(3) キーパーソン

取り組み段階やその他状況により変化することが考えられるが、現段階では商工会議所(商工会)や食品衛生協会等事業所関係がキーパーソンと言える。

モデル事業終了時の協議会で、「この事業が何となく分かってきた。継続した取り組みが必要だ。」との意見が多くあった。

この意見を大切にしていくなためにも、今後は互いに本当の思いを伝え、しっかり聞き、積み上げていくことが大切だと共通認識し、本音で語れる関係づくりを目指すこととなった。

こうして、肩の力を抜いて、ざっくばらんに語り合っていく中から、キーパーソンが見えてきた。